

新年度の目標達成を祈念し、だるまに目入れ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は4月20日（金）、ツインメッセ静岡（静岡市）の会議室において、平成30年度の隊務運営計画の示達後、各業務における目標の満願成就を祈念する恒例の「だるまの目入れ式」を実施した。

地本全隊員が見守る中、副本部長、各課室・地域援護センター及び地域事務所等の長それぞれが、平成30年度の目標を決意表明として披露した後、筆でだるまの左目を書き入れた。

今年度掲げられた目標には、「ピンチはチャンス。失敗を恐れずに募集活動を推進し、地域の住民から信頼される有能な人材を獲得する」「厳しい募集環境を克服するため、所員一丸となり募集目標達成に邁進していく」「今まで以上に活気ある事務所作りに努め、所員一致団結して募集目標達成に邁進する」といった、昨今の厳しい募集環境を反映したものが多かった中、静岡所は新しく作成したイメージキャラクター「駿河葵」を起用し、情熱を注いだ募集広報を繰り広げることが決意するなど、逆境に負けない強い意志が感じられた。

最後に本部長が本年度の全目標の完全達成を祈念し、黒々と左目を書き入れた。このだるまは、これから1年本部長室に飾られ、隊員の業務を見つめ続ける。

静岡地本は、平成30年度を活気に満ちた前向きな姿勢で取り組み、目標達成に邁進していく。



今春入隊者が母校の恩師に自分の成長を披露

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は5月2日（水）、今春静岡県立静岡西高等学校（静岡市）を卒業して陸上自衛隊に入隊した、菊地庸介2等陸士、名和大我2等陸士、浅場勇人自衛官候補生の母校訪問に同行した。

菊地2士と名和2士は武山駐屯地第117教育大隊（神奈川県横須賀市）、浅場候補生は板妻駐屯地第34普通科連隊教育隊（御殿場市）において、それぞれ一人前の自衛官になるために基本教育を受けている。

陸上自衛隊の新制服に身を包んで母校を訪問した3人は、校長室で渡邊健校長をはじめ、学年主任、部活動の顧問など、在校時お世話になった恩師に近況報告を行った。

対応した教諭たちは、ついひと月前に卒業した頃に比べ、身体は引き締まり一回り大きくなった姿に感心するとともに、訓練の様子や隊内での生活などのほか、自衛官としての決意を話す教員の成長に目を細めていた。

静岡地本は、引き続き学校と連携を図り、優秀な人材の継続的な確保に努めるとともに今後も県内出身隊員の成長を見守っていく。

